



## スペースジャパンレビュー編集委員巻頭言 平成23年卯年

**明**けましておめでとうございます。2011年となり、昨年暮れに決定された新防衛計画大綱には、宇宙基本法施行の効果として宇宙の開発及び利用が記述されています。また、予算を伴う政策の詳細は分かりませんが、安全保障に関する衛星通信の重要性は益々高まっており、本年こそ具体的に発展する年になることを期待したいと思います。Space Japan Reviewも皆様のご協力により益々充実させていきたいと願っています。引き続きご支援をよろしくお願い致します。  
編集顧問 飯田 尚志

**本**年もよろしくお願い致します。宇宙基本計画ができて2年半経過していますが、計画にうたった予算規模を、「身の丈にあわせて」大幅に削減することが報じられました。財源不足は致し方ないことながら、国の安全保障とか将来の立国への戦略投資としての宇宙開発利用が、現在の「身の丈」で議論されてしまうことは情けないことです。

間もなく創刊から満12年を迎える本誌ですが、それこそ当初の「身の丈」からはみ出しても、国の基本政策など重要問題についても議論する場を、ささやかながら提供できたらと念じております。  
編集顧問 植田 剛夫

**新**年明けましておめでとうございます。日頃SJRのご愛読ありがとうございます。昨年は、惑星探査機“はやぶさ”の地球帰還で一躍宇宙探査のニュースで沸き返り、そのニュースに刺激され宇宙に対する国民的感心が高まり、国民の宇宙への関心を沸き立たせる好機となったと思います。従って“はやぶさ”後継機の計画もすんなり認められ2013年には打ち上げられることが期待されています。然しこの成果も、自律誘導航法機能を備えていると言えども、3億Km以上離れた宇宙空間にいる衛星との通信が出来たことによる成果とも言えると思います。一昨年纏められた宇宙基本計画に、9つの主なニーズと衛星開発利用等の現状・向こう10年程度の目標が示されていますが、宇宙での通信技術の研究開発に相当する項目が希薄であることへの心配が心の中によどんでいます。“はやぶさ”成功が宇宙通信の研究開発の一層の進展に影響することに期待しています。

一方尖閣諸島問題からの強い警告として国土安全保障(homeland security)上の沿岸警備、いっては広大な海上での情報収集能力とその有効活用が話題になりました。具体的には海上保

安庁の情報収集機能とその活用が大いに話題になり議論され機能向上の必要性が語られました、この事は中国の防衛力増強への対応と相まって検討されなければならないが、地上設備だけでは到底対応不可能であり衛星を活用したAIS-Sデータの活用の必要性を想起させるものであります。新政府は地球温暖化対策を政策の中核に据えるなど環境観測・自然環境の悪化の防止策などに加え安全保障への対応にも宇宙技術開発が大きく貢献する事を考慮しその研究開発に留意すべきと思われます。

WINDSの利用実験も順調に推進し、シンポジウムでもその成果が報告され、環太平洋地域との協力を考慮に入れ、新たな高度衛星通信技術の開発の必要性が認められ推進されることが期待されています。又昨年夏期に打ち上げられた準天頂衛星1号機は軌道上性能確認、初期機能試験を終わり利用実験に入るまでに成り順調に推移しています、1999年AIAA JFSCで準天頂衛星システム検討委員会を立ち上げ2000年4月報告書をまとめて以来その開発がAll Japanで推進された成果であると自認しています、今後、更に実用計画まで順調に発展することを心より願っております、DRTSを含めた衛星通信技術の貢献が多いに期待されることは言を待ちません。最期にハヤブサの無事帰還に沸いて宇宙に対する国民的感心が高まり、国民の宇宙への関心を沸き立たせる好機となったことを宇宙開発の更なる発展に生かせることを期待しています。今年もSJRをご愛顧頂きますようお願い致します。 編集特別顧問:北爪 進

**あ** けましておめでとうございます。寒さが厳しくなってきましたが、ヨーロッパ、アメリカで異常な寒波が襲い、温暖化とはまた異なる傾向が見られているようです。一部には、小氷河期に向かっているのではという予測もあり、自然現象はまだまだ多くの神秘に包まれているようです。観測技術等宇宙技術のさらなる発展がこのような自然現象の解明に役立って欲しいものです。また、一方、社会現象では、近隣の国の脅威が大きくクローズアップされてきています。監視や通信等ナショナルセキュリティの面でも宇宙技術が大きく寄与するところであり、わが国の宇宙技術開発がさらに発展することを期待したいと思います。

編集顧問:鈴木 良昭

**今** 年は宇宙庁の設置が予想される等、卯年という事もあり、宇宙衛星分野の飛躍の年になると期待しております。微力ながら民間衛星オペレーターの視点から、ホットな情報をお届けしたいと思います。本年も宜しくお願い致します。 編集委員:小林 勇

**昨** 年末に編集委員会の一員となりました。編集委員の活動を通じて、最新の情報や貴重な経験談などに触れる機会を得られたことに感謝しています。私自身も国内外の会議などへ参加する機会がありますので、新しい情報が得られましたらご紹介したいと思います。興味引く記事を編集できるよう努めますので、ご支援をよろしくお願いいたします。 編集委員:高山 佳久

**今** 年は、本編集委員会が属している親学会である米国航空宇宙学会(AIAA)の通信衛星システム国際会議(ICSSC)が奈良県ホテル日航奈良において11月28日から12月1日にかけて開催されます。これまで日本での開催は、1998年横浜、2003年横浜について3回目になります。日本衛星通信フォーラム(JFSC)の発足は1998年横浜開催に端を発していますので記念すべき国際会議にあたります。Space Japan Review誌でも本国際会議の内容を詳しく報告する予定です。昨年は、宇宙通信相談室、Space Japan Book Review、Space Japan Interviewと新しいコーナーを作ってきました。本年は昨年以上に記事を刷新し、内容を充実したいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

編集委員長:若菜 弘充